

令和7年度秋田県放課後児童支援員等認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

<県南会場>

科目 ⑬こどもの生活面における対応

- ◆ 今回の研修の中で特に興味深かったのが、食の安全とアレルギーについてだった。食中毒は知らなかったものも多くあった。また食物アレルギーについては、グループでの話し合いで、ひどい牛乳アレルギーの子どもが、家で牛乳を飲んできた隣に座った子どもの唾が飛んできてただけでアナフィラキシーを起こしたと聞きとても驚いた。食物アレルギーへの対応は、職員全員が情報を共有していなければならないということを理解した。
- ◆ 子どもの心身の健康状態や感染症など生活面における対応について理解を深めるとともに、食物アレルギーに関しては学童にも該当する子がいるため関心をもって学ぶことができた。改めてアレルギーに対し基礎知識をもつことと、緊急時の役割分担について職員間で話し合いたいと思う。そして、適切なおやつ提供や健康観察を行っていくためにも、日頃から保護者との情報共有を密にして安全に過ごせるようにしたい。
- ◆ 子どもが日常生活を安心して送れるよう、基本的生活習慣の定着を支える大切さを学びました。健康管理や情緒の安定を意識すること、食物アレルギーや感染症への正しい知識と衛生管理の実践が欠かせないと感じました。加熱や消毒、吐しゃ物処理などの具体的な対応や命に関わるアナフィラキシー時の判断やエピペンの使用、さらに運動によって発症する特殊型アレルギーの危険性についても理解できたことは、日々の支援に活かせる学びとなりました。
- ◆ 来所時に一人ひとりの心身の状態を把握すること、連絡なく欠席したり来所が遅れたりしたとき適切に対応することなど、基本的な部分をしっかりと意識して支援にあたりたいと思う。そのためには、きちんとマニュアルを覚え、職員間の共通理解と保護者との連携が大切である。また、食物アレルギーや食中毒などの知識も広範囲にわたるがとても大事なことでしっかりと覚えて、おやつ提供時には少しでも役立てていきたいと思う。
- ◆ 子どもの健康維持のための衛生管理について（食中毒、感染症、食物アレルギー）それぞれの特徴と具体的な対応を学ぶことができた。特に食物アレルギーでは、誤食を防ぐため事前に保護者への聞き取りや職員間の共通理解、アナフィラキシー発症への対応等、マニュアルがあることで迅速な対応ができる。ぜひ、エピペンの研修を受けてみたい。今回の研修は子どもの健康管理をしていくうえで重要であるので、正しい知識を身に付け現場で活かしていきたい。